

2025年度 学科別授業科目一覧表 （実務経験表記あり）

課程： 工業専門課程

学科： 高度情報システム科

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須・選択	講義・実習	実務経験
91	ソフトウェアテスト	4	30	1.5	必修	実習	有
92	LPIC/LinuC対策Ⅱ	4	30	2	必修	講義	有
93	AWS演習	4	60	3	必修	実習	有
94	Docker/コンテナ	4	30	1.5	必修	実習	有
95	システム設計演習Ⅰ	4	60	3	必修	実習	有
96	システム設計演習Ⅱ	4	60	3	必修	実習	有
97	ロボット制御Ⅰ	4	60	3	必修	実習	有
98	ロボット制御Ⅱ	4	60	3	必修	実習	有
99	プロジェクトマネジメントⅠ	4	30	2	必修	講義	無
100	プロジェクトマネジメントⅡ	4	60	3	必修	実習	無
101	卒業研究ⅠⅡ	4	120	6	必修	実習	有
102	卒業研究ⅢⅣ	4	120	6	必修	実習	有
103	高度国試対策Ⅰ	4	30	2	必修	講義	有
104	高度国試対策Ⅱ	4	30	2	必修	講義	無
105	体育実習Ⅳ	4	30	1.5	必修	実習	無

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
専門	必修	実習	ソフトウェアテスト		仲 智弘	有	1.5 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】								
単体テスト、結合テスト、総合テストについて、実践を交えて理解を深める。								
【講義概要】								
設計書ベースのプログラミングと、それらを対象としたテストの実施。プロジェクト管理手法はW F Mを前提とする。								
回	授業計画及び学習の内容							
1	導入							
2	単体テスト概説							
3	単体テスト演習							
4	同値分割、境界値							
5	ホワイトボックステスト、カバレッジ							
6	単体テスト自動化：Java							
7	ここまでのまとめ							
8	単体テスト自動化：Java							
9	単体テスト自動化：Java							
10	単体テスト自動化：CI/CD							
11	デシジョンテーブルテスト							
12	状態遷移テスト							
13	組み合わせテスト、テスト技法適用チャート							
14	非機能要件、負荷試験							
15	総復習							
【成績評価方法】								
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（	）	合計
割合		40%			60%			100%
(補足)		・成績は1 0 0 点を最高とし、 6 0 点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。						
【教員紹介】								
独立系 I T 企業にて S E ・ P G としてソフトウェア開発業務に従事。								
【教科書・参考文献】								
【この1冊でよくわかる】 ソフトウェアテストの教科書								

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	講義	LPIC/LinuC対策Ⅱ		太田 和也	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
LPIC101取得を目標とする。							
【講義概要】							
LPIC101試験に合格するのに必要な知識について、優先度をつけて紹介する。また、Linuxのしくみなど理解が困難な内容について解説する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	絶対パス、相対パス、Linux内のディレクトリ構造についてのおさらい						
2	主要なファイル操作・編集系コマンドの確認と紹介						
3	パイプとリダイレクト						
4	正規表現に関わるコマンド、viエディタの操作						
5	アーカイブファイルと圧縮・展開						
6	これまでの学習範囲に対応する問題演習						
7	中間試験						
8	ファイルのアクセス権、所有者・所有グループの設定管理						
9	リンクとプロセスの管理						
10	パーティションとファイルシステム、マウント						
11	Linux起動の流れ						
12	パッケージの管理						
13	その他LPIC101で出題される事項の解説						
14	これまでの学習範囲に対応する問題演習						
15	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		100%					100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
独立系IT企業にて、アンチウイルス製品のプリセールスおよび製品導入作業、サーバの設計、構築、保守に従事。							
【教科書・参考文献】							
翔泳社「LPICレベル1 version5.0対応」							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科	2025		4 年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
専門 必修	実習	AWS演習	七崎/松田	有	3 単位 60 時間		
【授業の到達目標及びテーマ】							
クラウドコンピューティングで利用されるAWSについて、基礎から学び、自力で基礎的な環境が作れるようになる。							
【講義概要】							
世界で広く利用されているパブリッククラウドサービスやAWSについての基礎知識を学び、実際にAWSの環境にログインして操作しながら、知識や操作方法を習熟する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	システムの基本概念とクラウドの導入、AWSの基礎						
2	AWS基礎、コンピューティングサービスの基礎(EC2)						
3	ネットワークサービスの基礎(VPC)						
4	ネットワークサービスの基礎(VPC)続き						
5	ストレージサービスの基礎(EBS、S3)						
6	データベースサービスの基礎(RDS)						
7	総合演習 1 (基本的な構築の復習)						
8	総合演習 1 解説						
9	セキュリティサービスの基礎(IAM他)						
10	管理サービスの基礎(CloudWatch他)、コンピューティングサービスの応用(Lambda他)						
11	ネットワークサービスの応用(ELB他)、ストレージサービスの応用(EFS他)、データベースサービスの応用(Aurora他)						
12	総合演習 2 (Webシステムの構築)						
13	総合演習 2 解説、その他サービス、AWS認定試験について						
14	まとめ 1						
15	まとめ 2						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		80%			20%		100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。					
【教員紹介】							
松田 金融系SIerでシステム開発を経験。 七崎 メーカーでシステム開発を経験。							
【教科書・参考文献】							
オリジナルテキスト							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	実習	Docker コンテナ		高橋 義博	有	1.5 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
Web Dockerがそもそもどんな仕組みで動いているのか、コマンドでは何を命令しているのか、オプションや引数は何を意味しているのかをきちんと理解し、Dockerの基礎を学んでいく。							
【講義概要】							
Dockerをひとつとおり動かして、止めて、廃棄するまでの流れを身に付けた上で、複数のコンテナ同士で通信をしたり、データをコンテナの外部に保存したりといった、現場で必要となるスキルを学んでいく。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	クラウドについて						
2	Dockerとは、Dockerのインストール、Dockerの操作						
3	小テスト、小テストの解説						
4	コンテナ作成→削除、コンテナと通信						
5	イメージの削除。WordPressを利用して複数のコンテナを動かそう						
6	WordPressコンテナの構成してみよう、WordPressを使ってみよう						
7	コンテナとホスト間でファイルのコピー						
8	ボリューム（フォルダ）のマウント						
9	コンテナのイメージ化						
10	コンテナの改造						
11	Docker Hubへの登録						
12	小テスト						
13	Docker Composeについて						
14	総合課題制作						
15	総合課題制作						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		60%		20%	20%		100%
（補足）		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
15年以上、Webデザイナー・Webプログラマとして幅広いWebシステム開発、Webサイト制作に従事。また、複数の専門学校等でWebデザイン講師に従事。							
【教科書・参考文献】							
仕組みと使い方がわかる Docker＆Kubernetesのきほんのきほん、小笠原種高（著）、 マイナビ出版							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科	2025		4 年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
専門 必修	実習	システム設計演習Ⅰ	山口 慶輔	有	3 単位 60 時間		
【授業の到達目標及びテーマ】							
システム開発の中における設計とはどのようなものか理解することをテーマとする。 システム設計の流れを把握し、設計書等を作成できることを到達目標とする。							
【講義概要】							
各設計について意味や考え方などの説明を行う。 実際のシステム開発で使用しているツールなどを使用し、設計書作成などの実習を行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	システム設計について／使用ツール準備						
2	要求定義① 業務フローの作成						
3	要求定義② 業務フローの作成						
4	要求定義③ データモデルの作成						
5	要求定義④ データモデルの作成						
6	基本設計① 機能概要設計／ドキュメント記載の注意点						
7	基本設計② 画面レイアウトの作成						
8	基本設計③ 画面レイアウトの作成						
9	基本設計④ 画面コントロール定義／画面イベント定義の作成						
10	基本設計⑤ 画面コントロール定義／画面イベント定義の作成						
11	基本設計⑥ データ設計／ER図の作成						
12	基本設計⑦ データ設計／ER図の作成						
13	基本設計⑧ データ設計／ER図の作成						
14	基本設計 総合演習						
15	基本設計 総合演習						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		65%	15%		20%		100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
開発ベンダー系IT企業でプログラマを経てSEとして開発業務に従事。 システム設計、アプリ基盤構築、複数の言語での開発経験有り。							
【教科書・参考文献】							
-							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	実習	システム設計演習Ⅱ		山口 慶輔	有	3 単位 60 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
システム開発の中における設計とはどのようなものか理解することをテーマとする。 システム設計の流れを把握し、設計書等を作成できることを到達目標とする。							
【講義概要】							
各設計について意味や考え方などの説明を行う。 実際のシステム開発で使用しているツールなどを使用し、設計書作成などの実習を行う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	詳細設計① A P I について						
2	詳細設計② A P I 外部設計						
3	詳細設計③ A P I 外部設計						
4	詳細設計④ A P I 外部設計						
5	詳細設計⑤ A P I 内部設計						
6	詳細設計⑥ A P I 内部設計						
7	詳細設計⑦ A P I 内部設計						
8	詳細設計⑧ A P I 内部設計						
9	テスト設計① テスト設計＜同値分割・境界値分析＞						
10	テスト設計② テスト設計＜デシジョンテーブル＞						
11	テスト設計③ テスト設計＜状態遷移＞						
12	テスト設計④ テスト設計＜組み合わせ＞						
13	テスト設計⑤ テスト設計						
14	テスト設計 総合演習						
15	テスト設計 総合演習						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		65%	15%		20%		100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
開発ベンダー系IT企業でプログラマを経てSEとして開発業務に従事。 システム設計、アプリ基盤構築、複数の言語での開発経験有り。							
【教科書・参考文献】							
-							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象														
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 前期														
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数														
専門 必修	実習	ロボット制御 I		稲垣 高宏	有	3 単位 60 時間														
【授業の到達目標及びテーマ】																				
LEDやセンサ、モーターなどの電子工作パーツを直接つないで制御することにより、ロボット制御の基礎を習得することを目的とする。																				
【講義概要】																				
Raspberry Piと電子工作パーツをプログラミング言語Pythonで制御する実習を行う。中間と期末試験は行わない。実習中心とする。																				
回	授業計画及び学習の内容																			
1	Raspberry Piとは何か（実習準備）																			
2	Raspberry Pi用のOS のインストール																			
3	LED																			
4	タクトスイッチ																			
5	割り込みとタイマー																			
6	PWM																			
7	まとめ																			
8	ADCインストール																			
9	ADC入力																			
10	ADC確認																			
11	ブザー																			
12	モーター																			
13	マトリックスキーボードとLCD																			
14	リレー																			
15	まとめ																			
【成績評価方法】																				
<table><tr><td>評価項目</td><td>試験・課題</td><td>小テスト</td><td>レポート</td><td>平常点</td><td>その他（ ）</td><td>合計</td></tr><tr><td>割合</td><td>60%</td><td></td><td></td><td>40%</td><td></td><td>100%</td></tr></table>							評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計	割合	60%			40%		100%
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計														
割合	60%			40%		100%														
(補足) ・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。																				
【教員紹介】																				
メーカー系IT企業でSE、プログラマとして開発業務に従事する。退職後に、シグマプロジェクトの研究員を務める。20代で起業して外資系やメーカー系の会社などを中心に開発業務に従事する。開発のほかに、マニュアルなどの翻訳や出版業務も行う。																				
【教科書・参考文献】																				
なし																				

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科	2025		4 年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
専門 必修	実習	ロボット制御Ⅱ	稲垣 高宏	有	3 単位 60 時間		
【授業の到達目標及びテーマ】							
ロボット制御の基礎となるより実践的な組み込み技術を業界標準なパーツを使って学ぶ。							
【講義概要】							
組み込みのMPUとして、実際に産業界で一番使われているのはSTM32である。その組み込みの実践的な技術を習得する。今回使用するMPUはSTM32L432KCを使う。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	STM32L432KCとは						
2	LED						
3	タクトスイッチ（ポーリングと割り込み）						
4	マトリックスキーボード						
5	タイマーの基礎						
6	PWMとLEDの調光						
7	PWMとブザー						
8	ADC基礎(DMAモード)						
9	ADC確認						
10	ADC応用						
11	I2C						
12	I2CとLCD						
13	I2Cとジャイロ						
14	センサの応用 1						
15	センサの応用 2						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		60%			40%		100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。としない。					
【教員紹介】							
メーカー系IT企業でSE、プログラマとして開発業務に従事する。退職後に、シグマプロジェクトの研究員を務める。20代で起業して外資系やメーカー系の会社などを中心に開発業務に従事する。開発のほかに、マニュアルなどの翻訳や出版業務も行う。							
【教科書・参考文献】							
独自の資料							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	講義	プロジェクトマネジメントⅠ		鹿子木 範昭	無	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
プロジェクトマネジメントの基礎的理解にあたってアジャイルシステム開発の方法を学習する。							
【講義概要】							
PMBOK第7版からアジャイル開発手法を意識したプロジェクトマネジメントにシフトしている。このため前提知識としてアジャイルシステム開発の基本的な考え方を理解するための知識を修得する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	アジャイルソフトウェア開発宣言						
2	スクラムとXP						
3	テスト自動化						
4	チケット駆動の基礎						
5	バックログとチケットの導入						
6	自動テストの導入						
7	中間試験						
8	コミュニケーションと振り返り						
9	期日とスケジューリング						
10	ボトルネック						
11	ナレッジマネジメント						
12	継続的な開発・学習・成長						
13	PMBOK第7版の概要						
14	まとめ						
15	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		60%	20%		20%		100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
大学・大学院等で30年以上の経営情報の研究教育歴があり、本学でも10年以上の教育歴がある。企業などでプロジェクトに参加し、マネジメントの経験がある。							
【教科書・参考文献】							
教科書 アジャイル開発の基礎知識と導入方法がこれ1冊でしっかりわかる教科書／ 増田 智明（著）／技術評論社 書 よりよくわかるプロジェクトマネジメント／日本プロジェクトマネジメント協会・編／オーム社							
参考							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	実習	プロジェクトマネジメントⅡ		鹿子木 範昭	無	3 単位 60 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
前期に引き続き、プロジェクトマネジメントの考え方、特にアジャイル開発を意識した手法について理解を進めていく。							
【講義概要】							
PMBOK第7版の解説を中心に、プロジェクトマネジメントのフレームワークを学習する。また実際のプロジェクトマネジメントツールを使って、マネジメントの課題を研究する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	前期の振り返りとまとめ						
2	プロジェクトマネジメント技術動向						
3	調達マネジメント						
4	プロジェクト作業パフォーマンス領域						
5	スコープマネジメント						
6	デリバリー・パフォーマンス領域						
7	中間試験						
8	資源マネジメント						
9	測定パフォーマンス領域						
10	リスクマネジメント						
11	テーラリング1						
12	テーラリング2						
13	事例研究						
14	事例研究						
15	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	提出物	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		60%	30%		10%		100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
大学・大学院等で30年以上の経営情報の研究教育歴があり、本学でも10年以上の教育歴がある。企業などでプロジェクトに参加し、マネジメントの経験がある。							
【教科書・参考文献】							
図解入門 よくわかるPMBOK第7版の活用/鈴木安而/秀和システム							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科	2025		4 年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
専門 必修	実習	卒業研究ⅠⅡ	仲 智弘	有	6 単位 120 時間		
【授業の到達目標及びテーマ】							
フリープログラミングの技術を習得すること。 他人のソースコードを読む技術を習得すること。 他人のソースコードの改善を、上手に促せるコミュニケーション技術を磨くこと。							
【講義概要】							
基本的に個別にプログラミングするが、グループごとに互いのプログラムを常に共有し、課題点や改善点を指摘し合う。プログラミングのスキルを高めつつ、第三者の視点を意識しながら品質を上げていく素養を身に付ける。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	個別制作 - プレゼン：何をやるか共有						
2	個別制作						
3	個別制作						
4	個別制作 - プレゼン：状況報告 1						
5	個別制作						
6	個別制作						
7	ここまでの振り返り						
8	個別制作						
9	個別制作 - プレゼン：状況報告 2						
10	個別制作						
11	個別制作						
12	個別制作						
13	個別制作 - プレゼン：状況報告 3						
14	個別制作 - プレゼン：成果報告						
15	ここまでの振り返り						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		60%	0%	0%	40%	0%	100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。							
【教科書・参考文献】							
-							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
工業専門課程		高度情報システム科		2025		4 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	実習	卒業研究ⅢⅣ		仲 智弘	有	6 単位 120 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
フリープログラミングの技術を習得すること。 他人のソースコードを読む技術を習得すること。 他人のソースコードの改善を、上手に促せるコミュニケーション技術を磨くこと。							
【講義概要】							
基本的に個別にプログラミングするが、グループごとに互いのプログラムを常に共有し、課題点や改善点を指摘し合う。プログラミングのスキルを高めつつ、第三者の視点を意識しながら品質を上げていく素養を身に付ける。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	個別制作 - プレゼン：何をやるか共有						
2	個別制作						
3	個別制作						
4	個別制作 - プレゼン：状況報告 1						
5	個別制作						
6	個別制作						
7	ここまでの振り返り						
8	個別制作						
9	個別制作 - プレゼン：状況報告 2						
10	個別制作						
11	個別制作						
12	個別制作						
13	個別制作 - プレゼン：状況報告 3						
14	個別制作 - プレゼン：成果報告						
15	ここまでの振り返り						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		60%	0%	0%	40%	0%	100%
(補足)		・成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
独立系IT企業にてSE・PGとしてソフトウェア開発業務に従事。							
【教科書・参考文献】							
-							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科	2025		4 年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
基礎専門 必修	講義	高度国試対策Ⅰ	小泉 真理子	有	2 単位 30 時間		
【授業の到達目標及びテーマ】							
情報処理安全確保支援士試験合格を目標とする。							
【講義概要】							
情報処理安全確保支援士試験の資格対策を行う。過去問（午後１）を学生同士で解説しあうことで理解を深める。合格者は授業・定期試験を免除する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	情報処理安全確保支援士試験概要、解説資料作成						
2	解説資料作成						
3	解説資料作成						
4	リハーサル						
5	解説発表						
6	解説発表						
7	中間試験						
8	解説資料作成						
9	解説資料作成						
10	解説資料作成						
11	リハーサル						
12	解説発表						
13	解説発表						
14	過去問演習（午後２）						
15	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		50%			50%		100%
(補足)		・成績は１００点を最高とし、 ６０点以上を及第点とする。 ・原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
SIベンダにてソリューション提案・設計に従事。保有資格：ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、応用情報技術者試験、情報処理安全確保支援士、ネットワークスペシャリスト試験、プロジェクトマネージャ試験など。							
【教科書・参考文献】							
情報処理安全確保支援士過去問題							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科	2025		4 年 後期		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
基礎専門 必修	講義	高度国試対策Ⅱ	平塚悠生	無	2 単位 30 時間		
【授業の到達目標及びテーマ】							
情報処理技術者試験のうち「高度試験」に分類され、ネットワーク技術の専門家を対象とした「ネットワークスペシャリスト試験」午前Ⅱ、午後Ⅰ突破を目標とする							
【講義概要】							
ネットワークスペシャリスト試験に頻出する分野ひとつひとつに焦点をあて、基本となる知識を復習するとともに出題に即した知識の使い方を解説する。過去問の類似問題を用いて演習と知識の定着を図る。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	ファイアウォール、UTM、IDS/IPS、WAFについての復習						
2	選択問題演習による知識の確認						
3	午後Ⅰを想定した問題の演習と解説						
4	VRRPについての復習						
5	選択問題演習による知識の確認						
6	午後Ⅰを想定した問題の演習と解説						
7	中間試験						
8	TCP、HTTP、DoS攻撃についての復習						
9	選択問題演習による知識の確認						
10	午後Ⅰを想定した問題の演習と解説						
11	DNSについての復習						
12	選択問題演習による知識の確認						
13	午後Ⅰを想定した問題の演習と解説						
14	メール、無線LAN、ルーティング、IPアドレスについての復習と選択問題による知識の確認						
15	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		100%					100%
(補足)		・ 成績は100点を最高とし、60点以上を及第点とする。 ・ 原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・ レポートや自習課題は必ず提出すること。					
【教員紹介】							
前職にてCCNAおよびLPICレベル1取得研修業務に約6年従事。教員に類する職務経験は16年程度。							
【教科書・参考文献】							
翔泳社「ネットワークスペシャリスト」							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度		履修対象		
工業専門課程		高度情報システム科	2025		4 年 通年		
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
一般教育 必修	実習	体育実習Ⅳ	高度情報システム科 担当教員	無	1.5 単位 30 時間		
【授業の到達目標及びテーマ】							
学園祭を通して、健全な身体と精神を育む。 学園祭は、各種催し物の企画、準備、実施、参加により、協調性を養います。 心身の健全な育成を目指しています。							
【講義概要】							
この授業は学園祭（準備 2 日間、学園祭 2 日間）の参加を以て、評価します。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	学園祭準備（1 日目、2 日目）						
2							
3							
4	学園祭（1 日目）						
5							
6							
7	学園祭（2 日目）、後片づけ						
8							
9							
10	－						
11							
12							
13	－						
14							
15							
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合 （補足）					100%		100%
・ 成績は 1 0 0 点を最高とし、6 0 点以上を及第点とする。 ・ 原則として欠席回数が1/3を超えた場合は、評価の対象としない。 ・ レポートや自習課題は必ず提出すること。							
【教員紹介】							
－							
【教科書・参考文献】							
－							